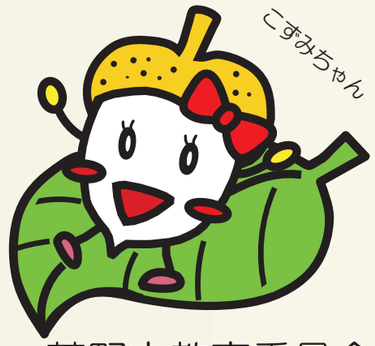
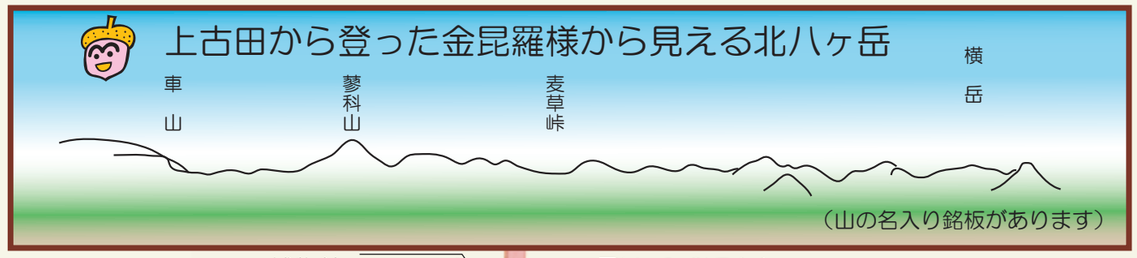
小泉山（こずみやま）体験の森



小泉山体験の森創造委員会・茅野市教育委員会



体験の森には子ども達の見つけた野草や木や花に名札をつけてあります。その一部が裏面に紹介されているので、どこかで見かけるかも……

この読み札の文は？

※答えは裏面

小泉山（こずみやま）と大泉山（おおずみやま）の伝説

ずっとむかしのお話です。

八ヶ岳は、高さ比べに負けた富士山にけとばされ、ごつごつになってしまいました。それを見た八ヶ岳の妹の蓼科山は、おにいちゃんがかわいそうで泣き続けました。そしてその涙がたまって諏訪湖になりました。

ちょうどそのころ「でいらぼっち」という、とてつもない大男がどこからかあらわれました。背の高さは雲をつんぬけ、ひと歩きのはばは4キロもあります。「おれが、あの湖をうめてやるわえ。」と大きな手でハヶ岳をけずりとったふたつの大きな土のかたまりをおんがら（あさの皮をとったから）の天びんぼうでかつぎあげました。

そして、諏訪湖をめざして歩きだした時です。天びんぼうがまん中からポッキリ折れてしまいました。でいらぼっちは、かわりの天びんぼうをやっとさがして、かつぎあげようとしましたが、ふたつの土の山はすっかり地面にくっついて小山になりました。でいらぼっちは、あきらめてどこかへいってしまいました。

このふたつの小山が小泉山と大泉山で、諏訪湖に近いほうが小泉山、ハヶ岳によったほうが大泉山です。　「諏訪のでんせつ」（竹村良信著）より

かるた：諏訪いろはかるた（信濃文化研究会版）
絵　佐原永泉

整備の基本的な考え方

◎小泉山（こずみやま）を市街地に近い里山とし、いつでも・だれでも楽しめる体験学習の場として整備したい。
◎現在の自然を守り、それを後世につなげたい。
◎創造委員会のメンバーが中心となり、道案内や昔の山での遊びを教えていきたい。（異世代間交流）
◎茅野市民俗文化財「火とぼし」を伝承していきたい。
◎先輩・後輩間での遊びの里山にしていきたい。（異年齢間交流）
◎整備後も地元の方、小学生、中学生で林内整備をしていきたい。

平成24年2月　改訂版